



対馬高校国際交流部の活動

対馬高校国際文化交流コースは、3年間のカリキュラムを通じて韓国の言語や文化を学ぶ機会を提供し、国際的に通用する人材育成に取り組んでいます。

今回、外部集落支援員の活動の一環として、国際交流部の活動を支援しました。



今回の取り組みのはじまりの日

2014年8月に対馬市主催の「高校生と大学生の語り合いの場」という半日間のイベントが開催されました。これは、島でさまざまな学びを得るために来島した大学生と地元高校生が、対馬の未来について話し合う場です。お互いに多様な価値観に触れることで刺激を受け、自分の故郷や進路について再考する機会となることを主眼に置いています。そのなかで、国際交流コースに在籍している生徒たちは、年間19万人を越える観光客が韓国から来島しているにもかかわらず、島の人との相互交流が少ない現状を踏まえ「対馬の人にもっと韓国のことを知ってもらいたい」「韓国の人に対馬をいまより楽しんでもらいたい」という思いを語ってくれました。その思いを形にしていくための1歩として、まずは韓国人観光客の実態を把握するために、アンケート調査を実施することにしました。

韓国人観光客の実態を把握するためのアンケート調査

集計

5月～6月

回収・翻訳

2月～4月

実施

12月末～2015年3月

作成

2014年10月～11月

「韓国人観光客の旅行スタイル・来島目的・対馬に対する印象・旅行中の食について」などに関する内容を中心に構成した質問を組み込み、選択式・記述式アンケートを作成しました。アンケート作成後、選択式アンケート（書かれている選択肢の中から回答を自由に選択するアンケート）は、国際港のある比田勝と厳原に設置・回収しました。一方、記述式アンケートは、韓国人観光客に対面式で直接質問し、得られた答えを記述していくやり方で、生徒たちが普段活動している厳原周辺で実施しました。

実施



生徒たちは、普段学校で学んでいる韓国語を活用し、川端通りや厳原港国際ターミナルで、記述式対面型アンケートに取り組みました。また、選択式のアンケートは、厳原と比田勝にある飲食店や宿泊施設の協力を得て、実施しました。3ヶ月に渡り実施したアンケートの回収枚数は、記述式（509枚）・選択式（802枚）合わせて、1311枚にものぼりました。観光客のみならず、対馬の高校生の取り組みに興味津々で「素敵な取り組みをしているね。がんばってね！」といった声をかけてくれるなど、アンケートを通じた交流が生まれていました。

作成



記述式アンケート

生徒たち皆で頭を寄せ合い、ひとつひとつ質問内容を考え、アンケートを作り上げていきました。2種類のアンケートが完成するまでに1ヶ月を要しました。



選択式アンケート

集計



翻訳済みのアンケートを元に、回答の整理と集計を行いました。生徒たちは、翻訳の間違いや記入ミスが無いよう、慎重に作業を行っていました。

生徒たちは、集計・整理したアンケート結果をグラフや表にまとめ、分析や考察までお互いに話し合い、様々なアイデアを出し合いながら取り組みました。



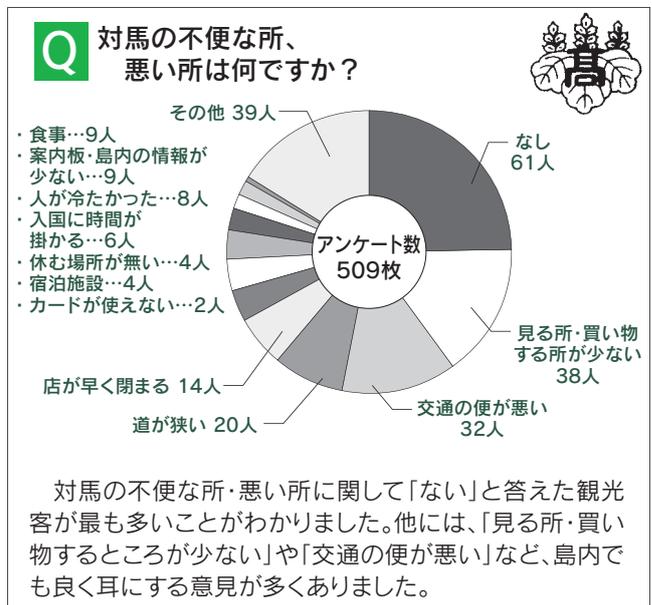
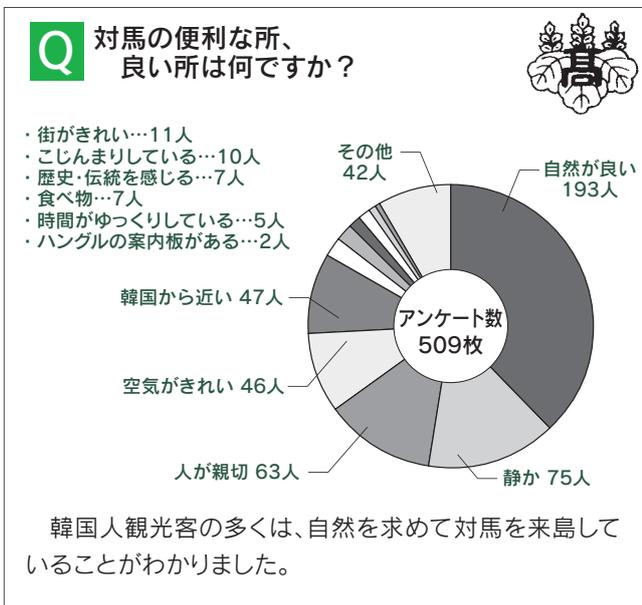
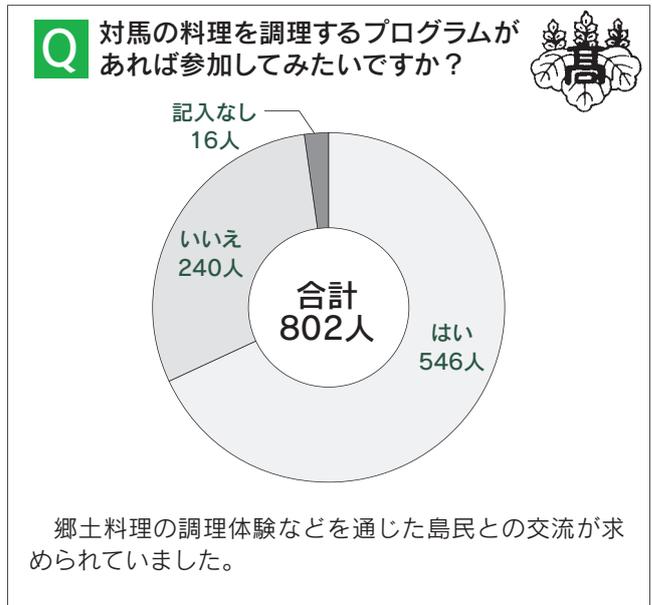
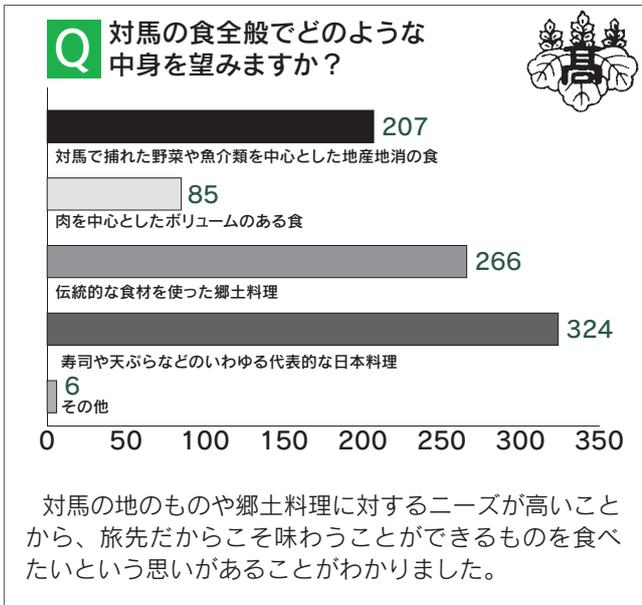
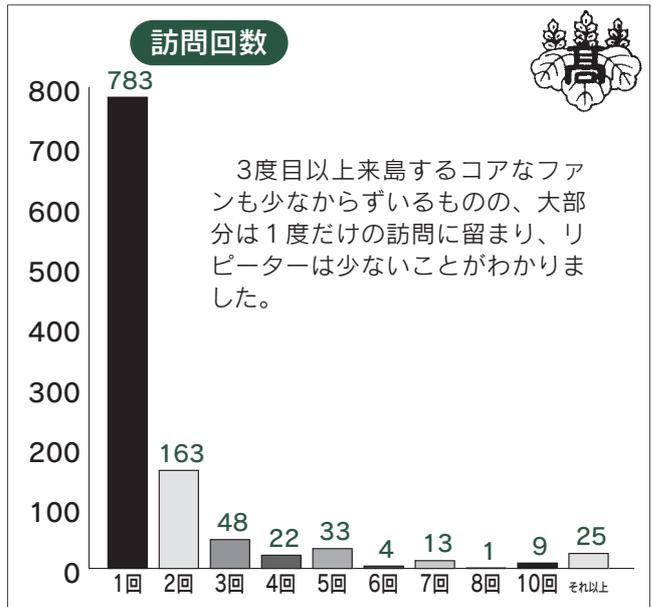
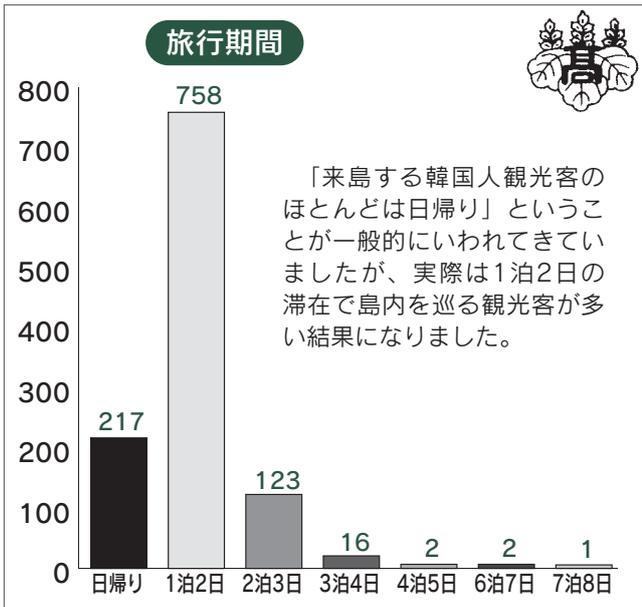
分析
考察

回収翻訳



回収したアンケートを1枚1枚丁寧に翻訳しました。わからない単語や読めない字などは顧問の先生に聞き、翻訳していきました。

韓国人観光客へのアンケート結果 いくつかの新しい発見がありました



生徒たちによる考察・提案

考察

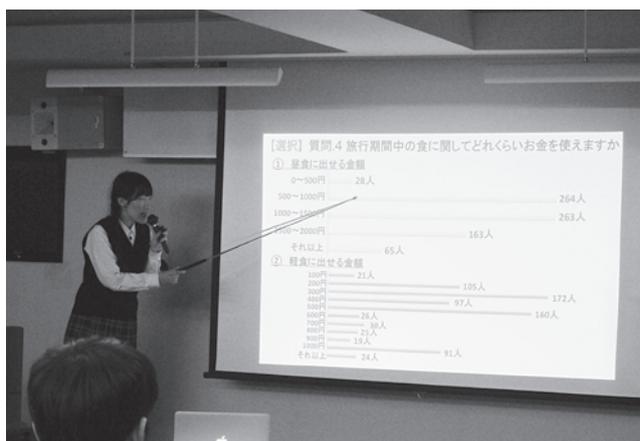
- ・観光客のリピート率はあまり高くない。しかし、2回以上訪れている人は一定数いる
- ・「また来たい」と思わせる魅力が、対馬にはある
- ・観光客が、食に対して求めるのは「日本らしさ」。同時に、対馬にきたからこそ味わうことができるものを求めている
- ・現在は民泊などをしない限り、調理体験をすることは難しい
- ・料理を通じた島の人たちとの交流は、新しい観光プログラムになるかもしれない
- ・豊かな資源環境や島の人柄が対馬の魅力
- ・観光客向けの情報発信が少ない
- ・案内板やハングルでの説明が少なく、不便と感じている人が多い
- ・路線バスなど公共交通機関が観光客にとって利用しやすいものではない

提案

- ・山歩きやシーカヤック体験を気軽にできるようにする
- ・島の人と交流できるプログラムを作る
- ・韓国語での情報発信を積極的に行う
- ・ハングルでの案内板を増やす
- ・観光客がまわりやすいようなバスの路線と時刻表を考える



報告会



10月31日（土）に商工会上対馬支所で、調査した内容を発表しました。結果報告後、参加した地元事業者からは「とても素晴らしい内容でした。今後も、このようなアンケートは実施していく予定はあるのですか」といった質問や「アンケート結果で上位にあがってきている品目は、免税品だと考えるのが妥当だと思います」といった結果の読み取り方に関する意見など、活発なやりとりが行われました。また「今まで知らなかったことが多くありました。とても勉強になりました」といった声も聞くことができ、今後の活動につながる報告会となりました。

（対馬市外部集落支援員 楠 高幸）